

ワークシート 解答例

【調べる】

このサイトではカエルやハチなどの毒が薬になって様々な人に役立っていると紹介しましたが、それはごく一部でほかにもたくさんの生物毒が薬となっています。ほかにどんな生物の毒が薬となり利用されているのかを調べてまとめてみましょう。

トリカブト…非常に強い毒を持ち、耳かき一杯程度の量でも神経に毒が回り呼吸困難や心臓麻痺を引き起こす。この植物の毒は乾燥させると漢方薬の材料に使われている。この薬の効果として、鎮痛や強壮などがある。

【考える】

このサイトの「生物毒図鑑」を参考に海・山などに行くときを持っていくといいものや必要な知識を考察してまとめてみましょう。

- ・温湿布→痛みを緩和できる場合がある（サソリなど）
 - ・お湯→痛みを緩和できる場合がある（オニヒトデなど）
 - ・ピンセット→毒針、触手を抜くことができる（ハブクラゲなど）
 - ・毒におかされた時はむやみに口で吸いだしたりしない→体内に毒が入る危険がある
-

【まとめ】

- ・生物毒には神経毒と直接毒がある。
- ・神経毒は筋肉と神経の接合部分であるシナプスに入り込んだり、神経にイオンを通す扉であるナトリウムチャンネルをふさいだりする。これにより筋肉の麻痺（まひ）が起こる。そのほかにも毒が体内に入り、赤血球を破壊して血液色素を溶出させる毒もある。
- ・直接毒は触れただけで症状が出てしまう毒だ。この毒は皮膚に触れたとき皮膚細胞を破壊し体内に侵入し症状を出す。
- ・生物毒は薬に利用されることがある。